

質疑応答（Q. 会場からの質問, A. 講演者回答, C. 会場からのコメント）

【3. WGの現場から見た国際標準化に必要な資質】

高橋 茂樹 （元 IEC WG 座長）

追加質問可（2013-05-31 まで）

概要：

標準化活動はインテリジェンス活動であると言える。IEC では、国際標準化活動に参加する専門家に個人として行動するよう求めているが、実際には、国、企業、個人としての立場で活動することが必要となる。自らの活動の中でバランスをとることが重要である。さらに、プロジェクトリーダーやコンビナーともなれば、WGに参加している他国メンバーが、どの立場で活動しているのかも見極めなければならない。国が異なっても出身企業が同じことがあるからである。標準化活動を行う者は、これらを念頭に、技術理解力を持ち、論理的な思考を行い、規格原案をまとめ上げる意志を持たねばならない。

Q. WGのメンバーを見ると同じ国から何人もでているが、制限はないのか。

A. (ISO/IECのDirectiveでは) Pメンバー（投票権のある国）から専門家として推薦されれば、何人でもWGに参加できる。また、私の所属しているSCの場合、専門家の履歴書を出すという案を提案したが、各国の権限を尊重すべきということで採用されなかった。一方、昔は、オブザーバー参加は特に制限もなくたまたま来ているので参加するという事も出来た。しかし、現在では事前登録が必要で、幹事が認めればという例外はあるが、基本的にはメンバーでなければ参加し難くなっている。

Q. 各国で推薦を受ける方法は

A. その国の標準化活動に普段から入り込み根を張っていることにより、必要な時にその影響力を行使して推薦を受けることが出来る。その点でインテリジェンスの機能と共通のところがある。